

店舗付共同住宅建設に伴う

北新町遺跡発掘調査報告書

——大東市中楠の里町所在——

1997年10月

大東市教育委員会

序 文

本書は大東市教育委員会が平成元年に実施した北新町遺跡の発掘調査報告書であります。この間、現在に至るまで、遺跡内においては府営住宅建替え工事、都市計画道路建設、下水道工事などに伴う大小様々な発掘調査、立会調査が実施されており、特に中世や古墳時代の集落跡や古墳時代の水田跡が広い範囲で検出され、奈良時代の人面墨書き土器や市指定文化財にもなった古墳時代の戸口装置一式などの貴重な遺物が出土しています。

成果の公表が遅れたことは大変遺憾に思いますが、今回の調査は調査面積が狭小にもかかわらず、遺構、遺物ともに多量に検出され、遺跡の範囲、性格を知るうえで、大変重要な成果を得ることができたものと思います。

最後になりましたが、調査にご協力頂いた八洲住宅(株)を始め、関係者各位に厚く御礼申し上げる次第であります。

平成 9 年 10 月

大東市教育委員会

教育長 北本慶三

例　　言

1. 本書は、㈱八洲住宅の計画による店舗付共同住宅建設工事に先立つ調査として大東市教育委員会が実施した、同市中楠の里町386-1番地所在、北新町遺跡の発掘調査報告書である。調査名はKSM89-2である。
2. 調査は、大東市立歴史民俗資料館黒田淳を担当者として、現地における調査は1989年5月27日から同年7月27日まで行い、引き続き内業整理を行い、報告書掲載の挿図、表、写真図版等の作成作業を1990年9月14日に終了した。その後、報告書執筆作業を一時中断し、1997年4月から再び開始し、1997年5月に校了した。
3. 本調査に要した費用は、すべて㈱八洲住宅が負担した。
4. 調査及び整理の実施にあたっては、大谷聰、大山清、北田享子、谷崎光子、辻本智英、野村香枝、深沢吉隆、宮田八重子、森石千枝子、山本芳子、吉田すみ子、吉村早苗、清水崇子、井尻由美子諸氏の協力を得た他、大阪府教育委員会文化財保護課技師松岡良憲氏からは有益な助言を得た。記して感謝の意を表する。
5. 本書の執筆及び編集は、担当者が行なった。
6. 本書に使用している標高はT.P.（東京湾標準潮位）で、方位は座標北を表す。
7. 調査において作成した写真、実測図、カラースライド等は、大東市立歴史民俗資料館に保管されている。広く利用されることを希望したい。

本文目次

序文

例言

第1章 調査に至る経過	1
第2章 遺跡の位置と環境	1
第3章 調査成果	4
1. 基本層序	4
2. 造構	5
3. 遺物	10
第4章 まとめ	17
ピット一覧表	18
報告書抄録	26

挿図目次

第1図 調査区地区割り図	1
第2図 周辺の遺跡分布図	2
第3図 調査区南壁土層断面図	4
第4図 第1造構面平面図	5
第5図 第2造構面平面図	6
第6図 S E - 1 平面・土層断面図	7
第7図 S E - 3・4 平面・立面・土層断面図	8
第8図 S P - 140 平面図・立面図	8
第9図 第3造構面平面図	9
第10図 S D - 3 出土遺物	10
第11図 S E - 1 出土遺物	11
第12図 S E - 2 出土遺物	11

第13図	S E - 3 出土遺物	11
第14図	S E - 4 出土遺物 (1)	12
第15図	S E - 4 出土遺物 (2)	13
第16図	S E - 4 出土遺物 (3)	14
第17図	ピット出土遺物 (1)	15
第18図	ピット出土遺物 (2)	16
第19図	包含層出土遺物	17
第20図	包含層出土石包丁	17

図 版 目 次

図版 1 第2遺構面 1・2・4・5区全景／3・6区全景、上 SP-140、下 SP-254

図版 2 第2遺構面 4・5区全景／S E - 4 遺物出土状況

図版 3 第2遺構面 S B - 4・5／上 SP-196、SP-212、上 SP-55、下 S E - 1

図版 4 第3遺構面・包含層 3・6区畦畔、上 畦畔-4、下 畦畔と S K - 1／弥生土器出土状況、石包丁

図版 5 出土遺物 S D - 3、S E - 2

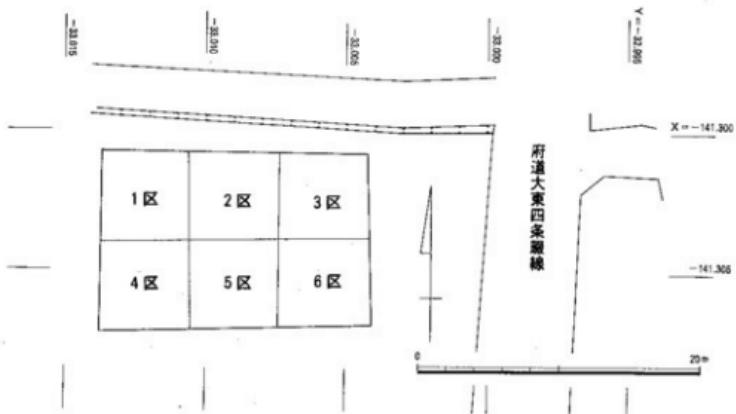
図版 6 出土遺物 S E - 3・4、包含層出土弥生土器

図版 7 出土遺物 S E - 4

図版 8 出土遺物 S E - 4

第1章 調査に至る経過 (第1図)

北新町遺跡は、1985年に府営大東四条畷住宅（その後北新町住宅と変更）建て替え工事に伴い発見された弥生時代～中近世に至る複合遺跡である。遺跡内においては、これまで北新町遺跡調査会が実施した府営住宅建替え工事に伴う4次にわたる調査の他、マンション建設、下水道、水道、ガス工事等の発掘調査、立会調査が実施されており、これらの調査結果より遺跡の範囲はさらに南西に拡がっていることが判明している。今回調査を実施したのは大東市中楠の里町386-1番地あたり、北新町遺跡の南西隅に位置している。今回の調査は1989年3月31日徳八洲住宅藤川博信氏より店舗付共同住宅建設の旨届出があり、これを受けて大東市教育委員会が工事に先立つ事前調査として実施したものである。調査面積は268m²で、調査区の地区割りと国土座標の関係は第1図に示すとおりである。調査は敷地面積が狭いため、掘り上げた土の置き場所を確保するため、まず調査区の約3分の2にあたる1・2・4・5区から掘削し、次に3・6区を掘削する反転調査で実施した。



第1図 調査区地区割図

第2章 遺跡の位置と環境 (第2図)

北新町遺跡は河内平野の北東部、大東市北新町地内に所在する。現在のところその範囲はJR学研都市線四条畷駅の西側にある府営大東北新町住宅を中心にして、標高T.P.+4~6mのところに、東西約400m、南北約300mに広がっているものと推定されている。

河内平野では今から約6000年前の縄文時代中期頃から、気温の上昇に伴う海進現象によって海水の侵入が進み河内湾が形成され、東は生駒山地の西麓まで海が迫っていた。大東市域では山裾の僅かな地域を除き大半が河内湾で占められていたことになる。以後河内湾は、河内潟、河内湖



第2図 周辺の遺跡分布図

と変遷を辿るが、近世に入り行なわれた大和川付け替え工事によって、ほぼ現在の河内平野の姿⁽¹⁾となった。北新町遺跡はその水辺に面した低湿地に立地した遺跡である。遺跡内における府営住宅建替え工事に伴う調査では、古墳時代前期の大型掘立柱建物跡や水田跡、鎌倉時代の建物跡⁽²⁾、奈良時代の河川等が検出され、遺物も各時代にわたるものが出土している。中でも特に注目されるのは、井戸枠に転用して使用されていた板扉、鴨居などの戸口装置一式や刳り船の部材が出土⁽³⁾したことや、他地方より運ばれてきたと考えられる前期古墳の竪穴式石室に使用される石材が出土⁽⁴⁾したことである。また、奈良時代の河川からは人面墨書き土器が出土⁽⁵⁾している。

周辺の遺跡としては、北方に弥生時代前期に始まり中期の方形周溝墓が検出された雁屋遺跡⁽⁶⁾があり、南方には弥生時代前期、古墳時代前期の集落跡が検出された中垣内遺跡があり、両遺跡とも北新町遺跡同様、水辺に面した低地に立地している。このほか東方の飯盛山の丘陵上には、墓谷古墳群⁽⁷⁾、宮谷古墳群⁽⁸⁾、北条古墳⁽⁹⁾、堂山古墳群⁽¹⁰⁾などの古墳が存在し、古墳の他にも弥生時代、中世、近世の遺構が検出されている。

註)

(1) 榊山彦太郎・市原実『大阪平野の生いたち』1986青木書店

(2) 『北新町遺跡第2次発掘調査概要報告書』1991大東市北新町遺跡調査会

(3) 『大東市北新町遺跡第1次発掘調査概要報告書』1986大東市北新町遺跡調査会

(4) (2) と同じ。

※その後、戸口装置一式は1991年に市指定文化財に制定されている。

(5) (2) と同じ。

※紅簾石片岩、網雲母片岩、点紋片岩、流紋岩、安山岩等の石材が出土している。

(6) (3) と同じ。

(7) 『雁屋遺跡発掘調査概要』1987大阪府教育委員会

(8) 『中垣内遺跡発掘調査報告書』1990大東市教育委員会

※関西電力東大阪変電所内に所在する遺跡で、1992年の調査では弥生時代中期の遺構も検出されている。古墳時代前期の集落跡は1986年の大阪産業大学校舎新築工事に伴う発掘調査で検出されている。

(9) 『寺川・北条遺跡発掘調査報告書』1987大東市教育委員会

(10) (9) 同じ。

(11) 『堂山古墳群発掘調査概要』1973大阪府教育委員会

『堂山古墳群』1994大阪府教育委員会

第3章 調査成果

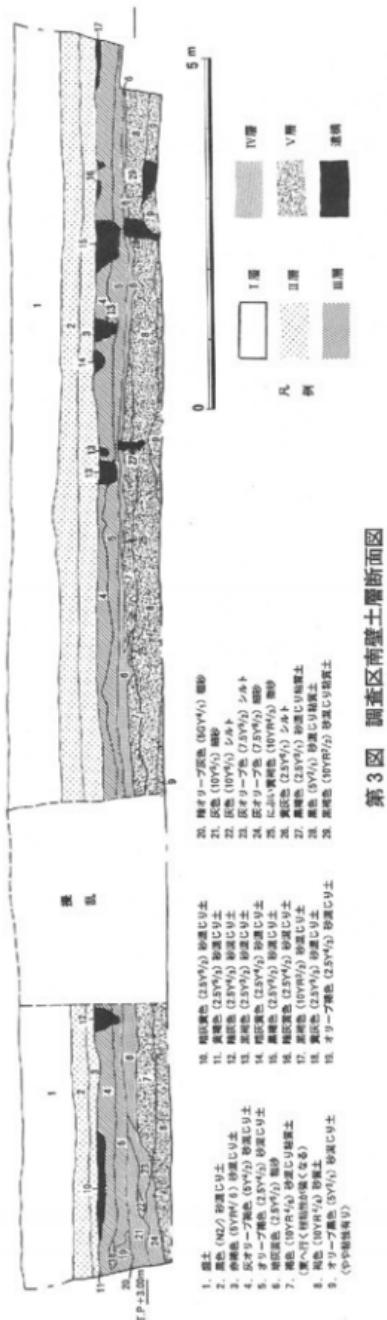
1. 基本層序 (第3図)

調査では50層以上の層位を確認することができたが、各層位はそれ自体で考古学的意味での一時期を表しているものではない。遺構面各々の間に存在する複数層がいくつかまとまって一つの時期を表しているものと考えられるため、ここでは調査区の南壁土層断面を例にとって、各層をまとめた大まかな基本層序を設定し、各遺構面との関係を説明することにする。

第Ⅰ層 1層は盛土、搅乱土で、調査区全体にみられる。掘削前の地表面はT.P.+4.8m前後であった。

第Ⅱ層 2層黒色砂混じり土、3層赤褐色砂混じり土より成る。2層は旧耕作土で、当地が盛土される以前の水田耕作土層である。また3層は少し粘質で、2層に伴う水田床土である。遺物は染付や瓦器、土師器、須恵器片が含まれているが、後世の耕作に伴い下層の遺物が掘り反されたもので、いずれも磨耗が激しいものばかりである。2層の上面で、調査区を東西に走る水路を検出しておらず、出土遺物と層位から近世～現代の時期が考えられ、第1遺構面とした。検出面はT.P.+4.1m前後を測る。

第Ⅲ層 4層灰オーリープ色砂混じり土、5層オリーブ褐色砂混じり土から成る。断面では4層から遺構が掘り込まれているが、遺構の検出がしづらい状況で、調査では5層上面で遺構を検出している。平安時代末～鎌倉時代の井戸、溝、柱穴を検出しておらず、第2遺構面とした。4層上面はT.P.+3.7m前後を測り、検出面はT.P.+3.2～3.4m前



後を測る。

第IV層 主に調査区全体でみられる暗灰黄色粗砂で、次のV層上面で検出した水田面を覆う土である。調査区の西側へ行く程層厚は薄くなっている。遺物は古墳時代の須恵器、土師器、弥生土器、石包丁などが出土している。

第V層 褐色～黒色の砂混じり土、砂混じり粘質土から成る水田のベースとなる土である。調査区の東側で畦畔を検出しており、第3遺構面とした。検出面はT.P.+3.1m前後を測る。遺物は古墳時代の土師器、須恵器などが含まれている。

第VI層 深掘りトレンチで確認した暗オリーブ灰色～灰オリーブ色の砂層である。遺物は弥生土器が含まれている。

第VII層 灰色、黒色粘土で、今回の調査で確認し得た最下層の土層である。最下層の黒色粘土までは、地表から約2.7mの深さであり、T.P.+2.1m前後を測る。遺物は含まれていない。

2. 遺構

第1遺構面（第4図）

調査区の北側で東西方向に直線に走る溝を2条検出している。田・畑の区画を兼ねた近世～近代の水路である。

溝

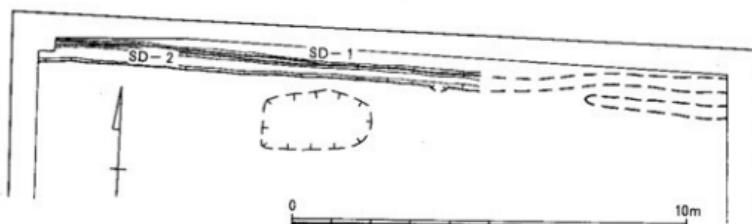
SD-1

1～3区で検出された。溝の北側の肩全体が排水溝によって切られているため溝の幅は不明であるが、推定で0.5m前後であると考えられる。深さは約0.1mを測る。埋土は直上に堆積していた旧耕作土と類似する黒色砂混じり土である。埋土には染付、瓦器片等が少量含まれていた。

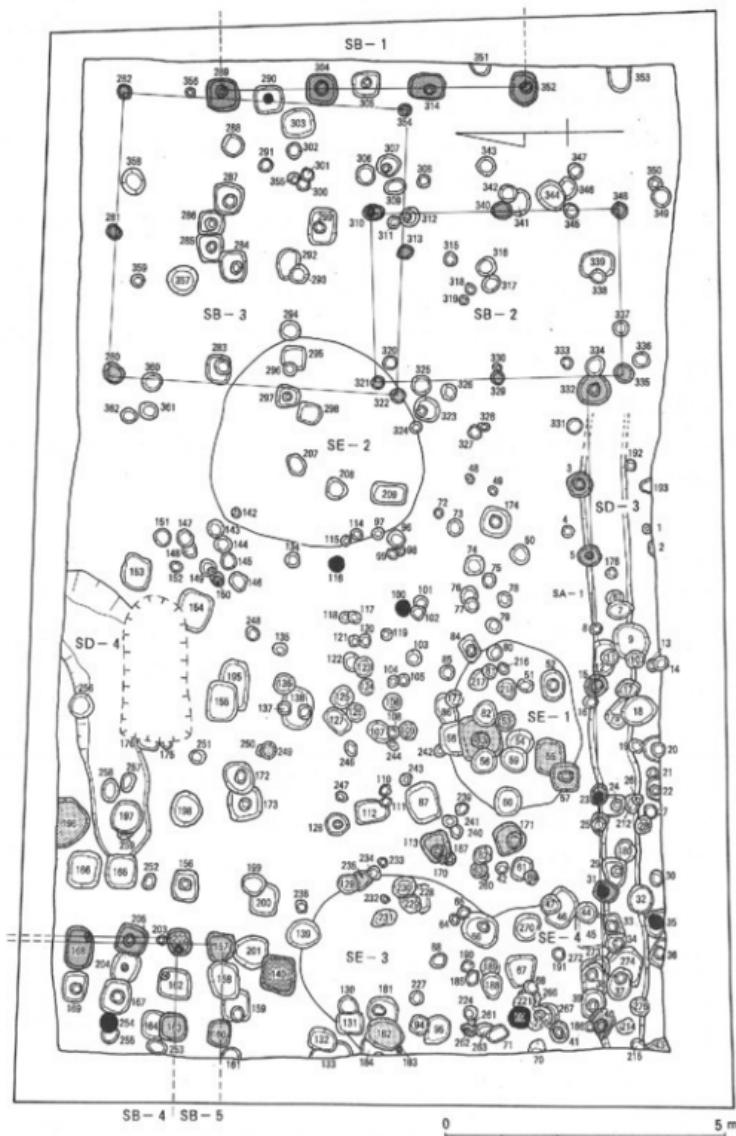
SD-2

1～3区で検出された。SD-1の南側に近接し、平行して走る。幅0.4～0.5m深さ約0.1mを測り、埋土は黒色砂混じり土である。遺物は染付、瓦器片が少量出土している。

本来この両溝は一つの溝であったと考えられ、調査区の東側では後世の削平の影響を受けて、微かに溝の痕跡が残っているだけであった。



第4図 第1遺構面平面図



第5図 第2遺構面平面図

第2遺構面(第5図)

平安時代末～鎌倉時代の面で、井戸、溝、柱穴、建物跡、柵列を検出している。

溝

SD-3

4・5区で検出している東西方向に走る溝である。幅0.6～0.8m、深さ約0.1mを測る。調査区の東側では後世の削平のためか、消失している。遺物は土師器皿、瓦器楕が出土している。

SD-4

1・2区で検出しており、南北方向から東西方向にL字状に曲がる溝である。幅1.0～1.5m、深さ約0.2mを測り、先端部は袋状に終る。遺物は瓦器楕の完形品が1点出土している。

井戸

SE-1(第6図)

5区で検出された。平面形は $2.3 \times 3\text{ m}$ の楕円形を呈しており、深さは0.7mを測る。底部付近には拳大～人頭大の花崗岩の割り石が散在していた。遺物は土師器皿の甕片が出土しているのみである。

SE-2

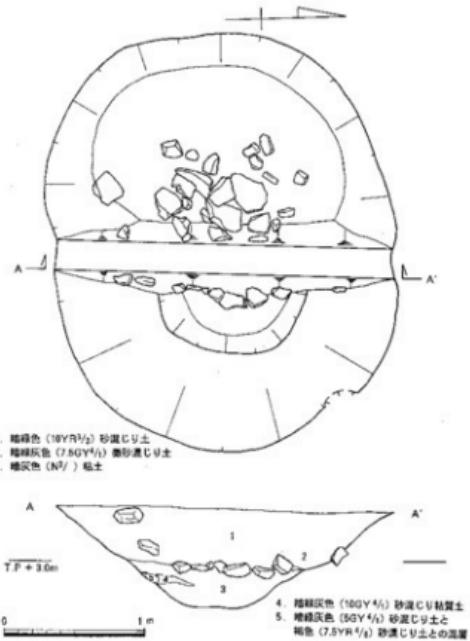
2・3・5・6区で検出された。平面形は $3.6 \times 3.7\text{ m}$ の不整円形を呈しており、深さは0.9mを測る。素掘りで、遺物は土師器皿、甕が出土している。井戸の抜き取り跡と考えられる。

SE-3(第7図)

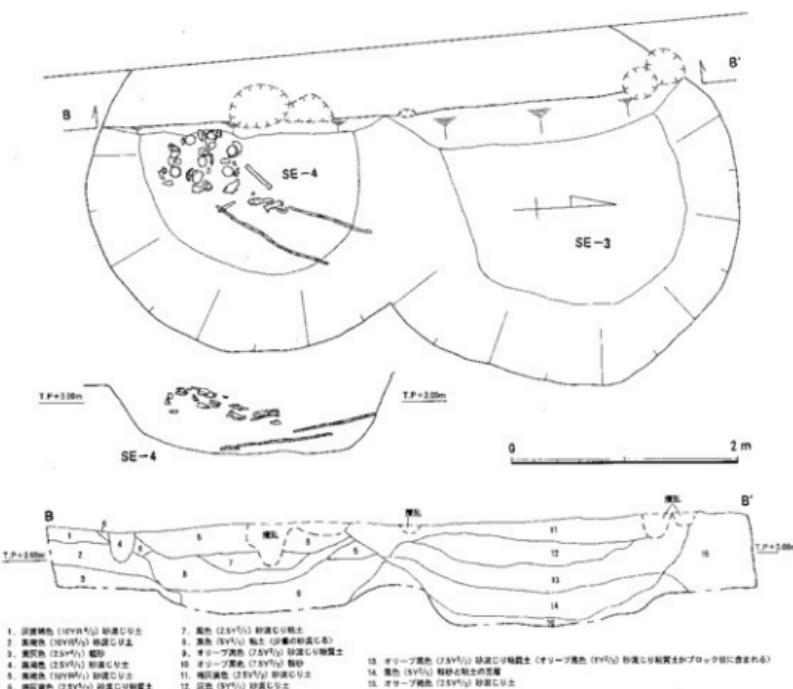
4区で検出された。SE-4と重複しており、SE-4よりも新しい。検出規模は $3 \times 3.8\text{ m}$ で深さは0.9mを測る。素掘りの井戸で遺物は瓦器皿、束縛系須恵器片口鉢が出土している。また、SE-3掘り下げ途中で、南側の肩付近より弥生土器が出土したが、下層である基本層序第IV層からの出土である。

SE-4(第7図)

4区で検出しており、SE-3に切られている。検出規模は $2.3 \times 2.5\text{ m}$ 、深



第6図 SE-1平面・土層断面図



第7図 SE-3・4 平面・立面・土層断面図

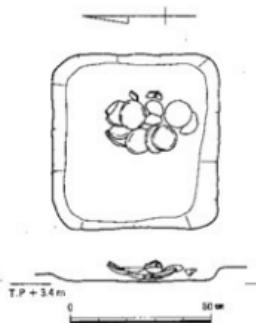
さは0.8mを測る。素掘りの井戸であるが遺物は他の3基の井戸に比べると出土量が多い。瓦器、椀、瓦器皿、土師器皿、甕、羽釜、甕が出土している。

ピット（第8図、一覧表）

ピットは総数340個検出しており、調査面積が狭小のわりにはその数は多く、検出密度は調査区の西側ほど高くなるようである。平面形は円形、梢円形、隅丸方形のものがあり、柱穴には柱根の残存するものや、花崗岩の板石を礎石にしているものが見られ、またSP-140のように10枚の土師器皿を埋納しているものがある。

建物・柵

全部で6棟の建物と1列の柵を復原しているが、調査区内で完結するものは少なく、検出されたピットの数に比して復原できた数は少ない。



第8図 SP-140平面・立面図

SB-1

3・6区で検出された。調査区の東側で南北方向に並ぶ3間(5.5m)を検出しており、調査区外へ続いているものとして建物と推定した。隅丸方形の柱穴で構成され、柱間は1.8~1.9mを測り、方位はほぼ南北方向に一致している。

SB-2

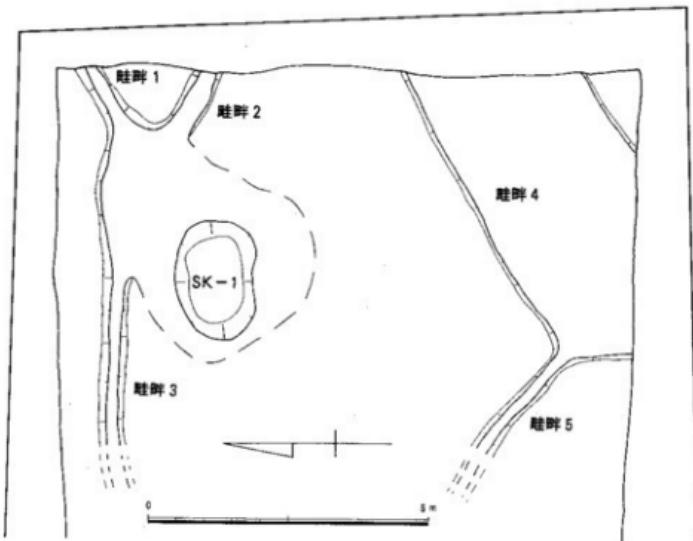
6区で検出された。東西1間(2.9~3m)×南北2間(4.4~4.5m)の建物で、北側のSB-3と重複している。円形もしくは楕円形の柱穴で構成され、柱間は南北が2.1~2.3mであるが、東西は2.9~3mと間隔が広くなる。間に柱が存在した可能性があるが、柱穴は検出されなかった。主軸はN-4°-Eを示している。

SB-3

3・6区で検出された。東西2間(5m)×南北1間(5m)の方形の建物でSB-2と重複している。円形もしくは楕円形の柱穴で構成され、柱間は東西が2.5~2.6mで、南北の間にも柱が存在した可能性があるが、柱穴は検出されなかった。主軸はN-3°-Wを示している。

SB-4

1区で検出されており、SB-5と重複する。調査区北西隅での検出のため全体の規模は明らかではないが、調査区外へ続くものとして建物と推定した。隅丸方形の柱穴で構成され、柱間は東西1.6m、南北1.8mで、方位はほぼ南北方向に一致している。



第9図 第3遺構面平面図

SB-5

SB-4と重複しており、同様に全体の規模は明らかではない。隅丸方形の柱穴で構成され、柱間は東西1.5m、南北1.6mで、方位はほぼ南北方向に一致している。

SA-1

SD-3に沿って並ぶ6間を検出しており、柵と推定した。円形、楕円形、隅丸方形の柱穴で構成され、いずれもSD-3を切っている。柱間は1.3~2.3mで方位はほぼ東西方向に一致している。

第3遺構面（第9図）

調査区の東側で水田に伴うと考えられる畦畔と土坑を検出している。

畦畔

畦畔は全部で5条検出しており、そのうち畦畔-1~3、5が幅0.2~0.3m、高さ3.5~8cmを測る小畦畔で、畦畔-5が幅約3.1m、高さ10cmを測る大型畦畔である。

土坑

SK-1

3区で検出された。畦畔-1・2・3が交わる高まり上で検出しており、平面形は3.0×3.5mの長円形を呈しており、深さは約0.4mを測る。埋土は暗褐色砂混じり粘質土で土坑内からの出土遺物は認められなかった。どのような目的で掘り込まれたのかは、不明である。遺物は水田面の直上に堆積する砂層より須恵器、土師器、弥生土器、石包丁が出土しているが、水田面のベースとなっている土層からは古墳時代の土師器、須恵器のみが出土している。

3. 遺 物

遺物は土器を中心として弥生時代～近世のものまで幅広く出土しているが、量的には中世のものが多い。ここでは出土遺構、層位別に簡単に説明する。

第1遺構面出土遺物

ここでは図化し得なかったがSD-1・2から、染付など近世の陶磁器類片が出土している。

第2遺構面出土遺物



第10図 SD-3 出土遺物

SD-3 出土遺物 (第10図)

1は土師器皿で、口縁部は底部から斜め上方に向かって延びる。口径9.1cm、器高1.4cmを測る。2・3は瓦器碗。2は口径14.6cm、器高5.8cmを測る。断面三角形の高台を有し、体部は底部から内湾して立ち上がり、口縁端部は屈曲して終る。内面には密な圓線ミガキを、見込みには連結

輪状の暗文を施す。外面は指押さえの痕が残り、わずかにヘラミガキを施す。3は口径12.4cm、器高3.8cmを測り、小型化した形態を示す。断面三角形の貧弱な高台を有し、体部は底部より内湾して立ち上がり、口縁端部は屈曲して終る。粗雑な作りで、外面は指押さえの痕が残り、わずかにヘラミガキを施す。内面は間隔を置いて約1mm幅の圓線ミガキが施され、見込みには長円を描く簡単な暗文を施す。4は黒色土器A類の杯で、口径16.6cm、器高5.3cmを測る。体部は平たい底部より内湾して立ち上がり、口縁端部はやや外反して尖り気味に終る。断面三角形の低い高台を有する。色調は外面橙色、内面黒褐色を呈する。

SE-1出土遺物（第11図）

5は土師器の甕で、復元口径14.8cmを測る。「く」の字形に屈曲する口縁部を有し、内外面はナデ調整を施す。

SE-2出土遺物（第12図）

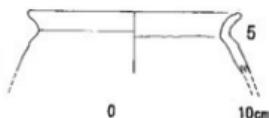
6は土師器の甕で復元口径14cmを測る。口縁部は厚みをもって「く」の字形に屈曲し、端部は丸味をもって終る。外面にかすかに指押さえの痕が残るが、内外面共ナデ調整である。7・

8は土師器皿で、7は口径9.6cm、器高1.6cm、8は口径9.6cm、器高1.6cmを測る。両者共口縁部を屈曲させ、「て」の字形口縁を呈するが、端部は7が斜め上方に、8が上方に向かって終わる。9・10も土師器皿で7・8よりも大きい形態を示す。

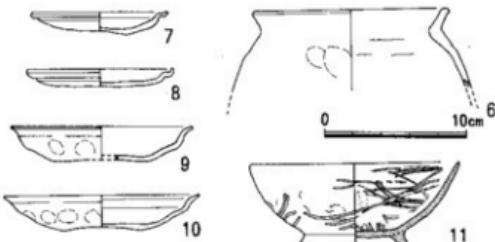
9が口径12.8cm、器高2.5cm、10が口径13.8cm、器高2.5cmを測る。外面は口縁部に二段ナデを施し、体部下半には指押さえの痕が残る。内面はナデ調整。11は黒色土器A類で、口径15.2cm、器高7.8cmを測る。断面台形のしっかりとした高台を有し、体部は平底の底部よりゆるやかに内湾して、口縁端部は斜め上方に向かって丸味を帯びて終る。

SE-3出土遺物（第13図）

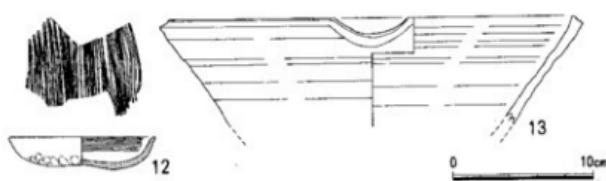
12は瓦器皿で、口径10.3cm、器高2.3cmを測り、見込みにジグザグ状の暗文と密なヘラミガキが認められ



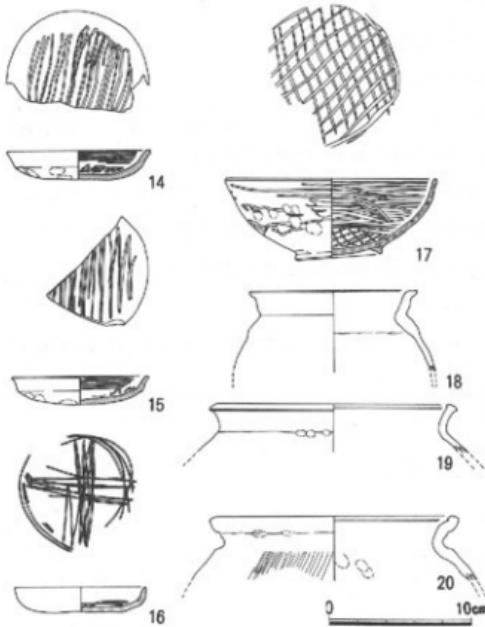
第11図 SE-1出土遺物



第12図 SE-2出土遺物



第13図 SE-3出土遺物



第14図 SE-4出土遺物(1)

が12cm、19が16.2cm、20が16.7cmを測る。21~36、45~47は土師器の皿で、口径9~10.6cm、器高は1.1~2cmを測る。37・38は土師器の羽釜で、37は口縁部が内湾して終っているが、38は屈曲して外側に逆ハの字状に開く口縁部をもつ。両者とも表面に煤の付着が認められる。37は復元口径25.4cm、38は29.5cmを測る。17は瓦器碗で、口径14.5cm、器高5.8cmを測る。内面には幅の太い圓線ミガキ、見込みには斜格子状の暗文が施され、外面のヘラミガキは省略化傾向にある。39~44、51~59も瓦器碗である。いずれも内面に密な圓線ミガキが施され、見込みには連結輪状の暗文が施されている。外面のヘラミガキは省略化されているが、58は底部付近にまで施されている。口径13.9~16cm、器高5.1~6cmを測る。50は瓦質の鍋で、内外面とも煤が付着している。48は竈の一部で、土師質で正面に庇状の突起と、その横に角状の短い突起が付く。内外面とも煤が付着している。

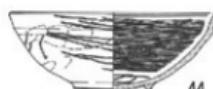
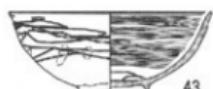
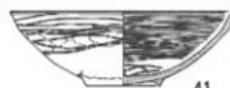
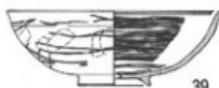
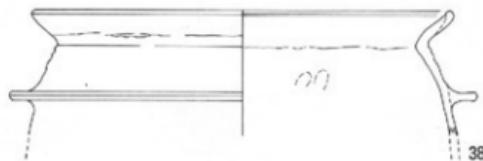
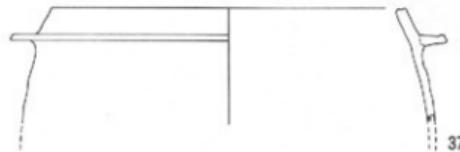
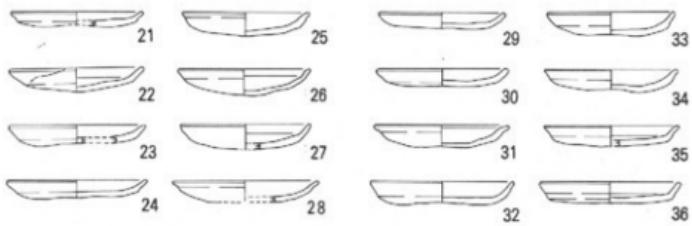
ピット出土遺物(第17~18図)

土師器皿(60~62、70~88)、瓦器碗(63~64、90~93)、瓦器皿(65~68)、竈(69)、土師器甕(89)がある。土師器皿は、60がSP-38より、61、62がSP-82より82がSP-189、84がSP-273より出土しており、70~81がSP-140、86~88がSP-272からの一括である。口径8.1~9.9cm、器高1.4~2.2cmを測る。瓦器碗は63がSP-131、64がSP-24(SE-1)、90~92

る。13は東播系須恵器片口鉢で、復元口径28.7cmを測る。

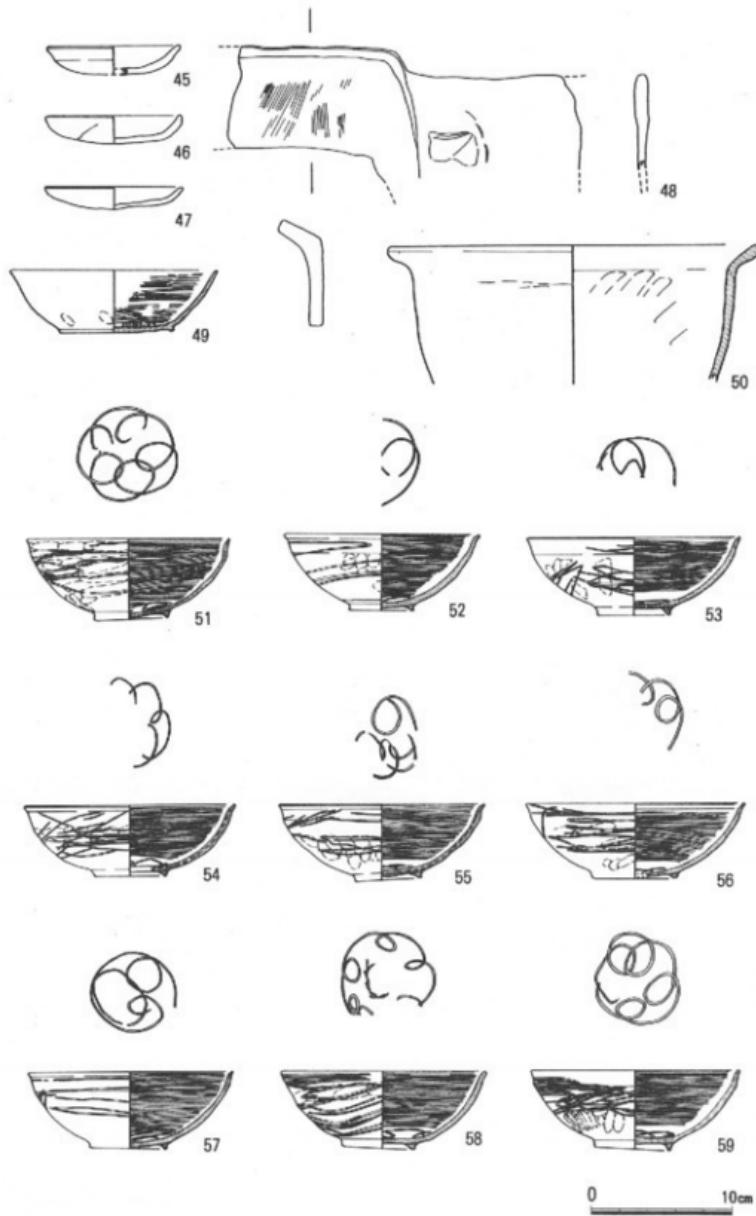
SE-4出土遺物(第14~15~16図)

14~16は瓦器皿。14・15は内面に密なヘラミガキと見込みにはジグザグ状の暗文が施されている。14は復元口径10.1cm、器高2.1cm、15は復元口径9.6cm、器高2cmを測る。16は見込みにジグザグの方向を変えた十字状の暗文を施している。復元口径9.2cm、器高1.8cmを測る。18~20は土師器の甕の口縁部で、いずれも逆ハの字状に開く短い口類部が付く。口縁端部は18のように尖らせて終るものや、19のように肥厚して終わるもの、20のように端部を内側へ折り込んでいるものがある。復元口径はそれぞれ18

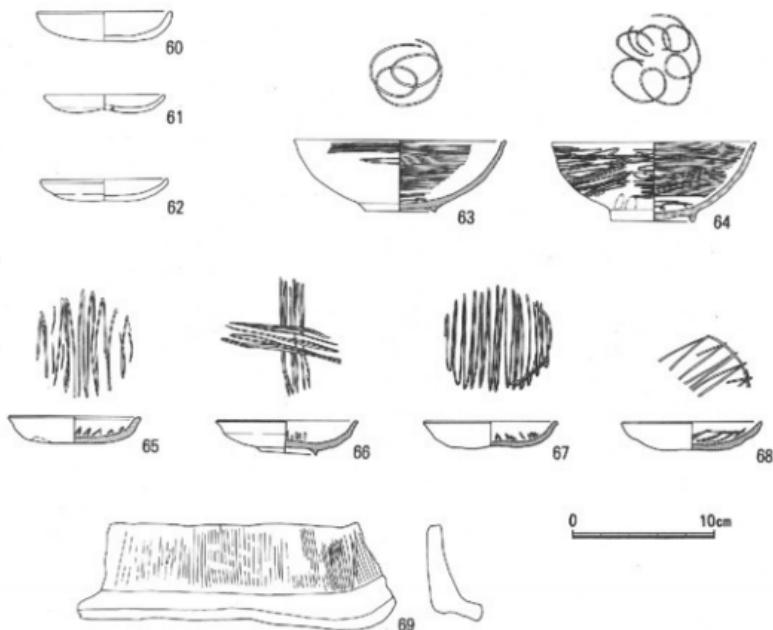


0 10cm

第15図 SE-4 出土遺物 (2)



第16図 SE-4 出土遺物 (3)

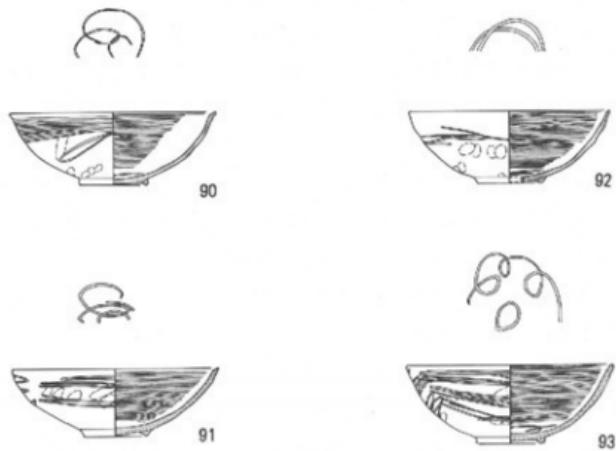
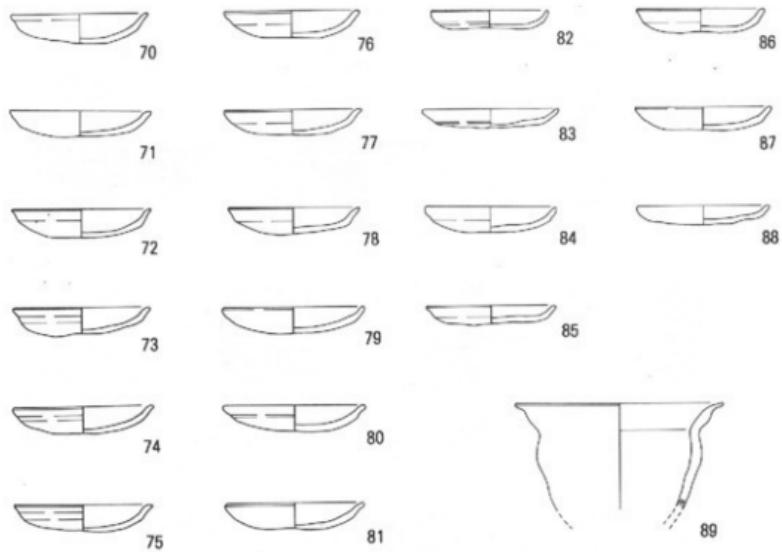


第17図 ピット出土遺物（1）

がSP-186、93がSP-273出土である。いずれも内面に圓輪ミガキが施され、見込みには連結輪状若しくは螺旋状の暗文が施されている。外面のヘラミガキは省略化傾向であるが、64・93は体部下半まで施されており、古い形態を示す。法量は口径14~14.8cm、器高4.9~5.6cmを測る。89はSP-273出土で、内外面ともにナデが施され、復元口径14.5cmを測る。出土している。瓦器皿は65~68がそれぞれ順にSP-43、54、69、182からの出土である。口径9.4~10cm、器高1.9~2.6cmを測るが、66には断面三角形の低い高台が付き、ジグザグの方向を変えた十字状の暗文が施される。69は土師質の甌の脚部で、SP-46から出土している。このほか、図化し得なかつたが、滑石製石鍋や、青磁、白磁片などが出土している。

包含層出土遺物（第19・20図）

94~96は弥生土器である。94・95は底部のみで、94は低い脚台が付く。96は壺で、SE-3掘り下げ途中の基本層序第VI層からほぼ一個体分出土している。内外面とも板状工具によるナデが施されており、体部と口頸部の境に一条の沈線をめぐらし、口縁端部には刻目が施される。口径26.2cm、器高43.4cmを測る。97は石包丁で、綠泥片岩製。長さ14.1cm、厚み9mmを測り、直線刃である。このほか包含層からは瓦器椀、瓦器皿、土師器皿、青磁、白磁、鉄製品、獸骨などが出土している。



0 10cm

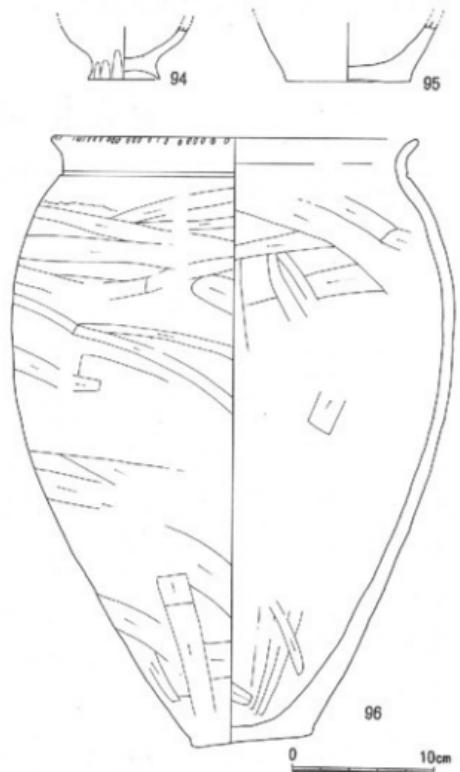
第18図 ピット出土遺物（2）

第4章 まとめ

今回の調査では遺構面を3面を検出している。第1遺構面は出土遺物などから近世の遺構面と考えられ、検出した東西方向に走る溝は、田畠の区画を兼ねた灌漑用の水路と考えられる。これまでの周辺における調査でも同様な東西方向、南北方向に走る溝が検出されており、それらと一連のものであり、近世の頃から近代の初めにかけて、この地域一帯は耕作地として利用されていたことが推定される。

第2遺構面は出土遺物などから平安時代末～鎌倉時代の遺構面と考えられ、大方中世前半期に相当する。

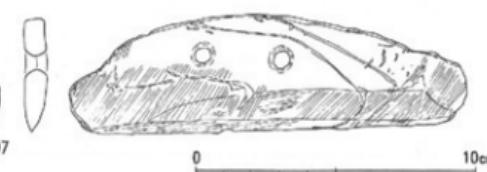
井戸4基、溝2条の他にピット340個が検出され、建物6棟、柵1列を復原している。このうち隅丸方形の柱穴で構成されるSB-1・4・5とSA-1の主軸がほぼ東西南北で一致しており、重複するSB-4とSB-5との前後関係は明らかではないが、これらの建物と重複しないSE-1・2とほぼ同時期のものではないかと考えている。SE-1・2が出土遺物より10世紀後半～11世紀前半頃の時期を示している。主に円形、楕円形の小型の柱穴で構成されるSB-2・3は、少し時期が下り、出土遺物などから12世紀末～13世紀前半頃と考えられる。多數のピットから、ほかにも複数の建物が存在したことが考えられ、10世紀後半～13世紀前半の間に数次の建替えが行わ



第19図 包含層出土遺物



第20図 包含層出土石包丁



0 10cm

れたことが推定されるが、現状ではこれ以上の建物の復原は困難であった。遺物に関しては、包含層、遺構から瓦器碗、瓦器皿などが多く出土しており、瓦器碗を見ると、初現期のものから13世紀後半のものまであり、大和型が多く存在しているようである。

第3遺構面では水田に伴う畦畔を検出しており、出土遺物が少ないため時期を確定し難いが、古墳時代後期と考えている。

今回の調査結果は、調査面積が狭いにも関わらず、これまでの調査結果を補足するに余りある成果を上げており、遺跡の広がり、特に中世の集落跡に関しては、さらに南西に広がることが再確認できたことは、大変意義のある結果を得ることができたものと考えている。

ピット一覧表

単位：cm

番号	地区	平面形	規模	深さ	備考
1	5	円	15	14	
2	5	円？	10×30	16	
3	5	円	45	12	SD-3を切る。SA-1 暗褐色砂混じり土
4	5	円	20×25	11	
5	5	円	40	12	SD-3を切る。SA-1 暗褐色砂混じり土
6	5	円	20×30	12	SP-7に切られ、SD-3を切る。
7	5	楕円	35×50	13	SP-6、SD-3を切る。
8	5	円	17×20	14	SD-3を切る。
9	5	円	50×63	11	SP-10に切られ、SD-3を切る。
10	5	楕円	32×35	21	SP-9、SD-3を切る。
11	5	楕円	27×31	13	SP-12、SD-3を切る。
12	5	隅丸方	38×60	9	SP-11に切られ、SD-3を切る。
13	5	円	13×20	19	SP-14に切られる。
14	5	円	25	18	SP-13を切る。
15	5	円	37	14	SD-3を切る。SA-1 暗褐色砂混じり土
16	5	円	23	9	SD-3を切る。
17	5	楕円	32×45	12	獸骨、石 SD-3を切る。
18	5	楕円	53×65	11	SP-178、SD-3を切る。
19	5	円	24	14	SD-3を切る。
20	5	円	25	32	
21	4	円	18	9	
22	4	円	19	21	
23	4	楕円	30×38	40	柱根、石 SP-24、SD-3を切る。SA-1
24	4	隅丸方	40×45	18	瓦器碗 SP-23・25に切られ、SD-3を切る。暗褐色砂混じり土
25	4	隅丸方	25×40	33	SP-24、SD-3を切る。
26	4	円	19	9	SP-212、SD-3を切る。
27	4	円	25	10	
28	4	円	30	14	SD-3を切る。
29	4	隅丸方	40×50	17	SP-31に切られ、SP-180、SD-3を切る。暗褐色砂混じり土
30	4	円	25×30	28	
31	4	楕円	38×42	19	柱根 SP-29、SD-3を切る。SA-1 暗褐色砂混じり土
32	4	楕円	45×50	4	SD-3を切る。

番号	地区	平面形	規模	深さ	備考
33	4	隅丸方	38×47	24	S E - 4、 S D - 3 を切る。暗褐色砂混じり土
34	4	隅丸方	30	44	S E - 4 を切る。暗褐色砂混じり土
35	4	不定	40×45	13	柱根 S D - 3 を切る。
36	4	隅丸方	27×47	14	S D - 3 を切る。
37	4	楕円	45×55	40	S P - 37・274、 S E - 4 を切る。暗褐色砂混じり土
38	4	隅丸方	50×55	22	土師器皿、瓦器皿 S P - 37・39切られ、 S P - 272・273、 S E - 4 を切る。
39	4	隅丸方	40×52	44	S P - 40に切られ、 S P - 38、 S E - 4 を切る。
40	4	隅丸方	45	22	瓦器碗、 S P - 186切られ、 S P - 39、 S E - 4 を切る。 S A - 1
41	4	円	34×38	36	S P - 267、 S E - 4 を切る。暗褐色砂混じり土
42	4	円	19	32	
43	4	円?	25×48	4	土師器皿、瓦器碗、石
44	4	円	35×38	9	S P - 45、 S E - 4 を切る。
45	4	隅丸方	53×60	5	S P - 44に切られ、 S E - 4 を切る。
46	4	隅丸方	44×67	4	土師質甌 S P - 47に切られ、 S E - 4 を切る。
47	4	円	34×37	10	S P - 46、 S E - 4 を切る。
48	5	円	11×17	2	瓦器碗
49	5	円	15×18	26	
50	5	円	34	20	
51	5	楕円	24×24	32	S E - 1 を切る。
52	5	長円	43×54	23	獸骨 S E - 1 を切る。暗褐色砂混じり土
53	5	円	35	18	石 S E - 1 を切る。
54	5	円	32×47	11	瓦器碗、瓦器皿 S P - 59に切られ、 S E - 1 を切る。
55	4	隅丸方	54×64	10	石、石鍋 S P - 57に切られ、 S E - 1 を切る。
56	4	楕円	45×45	25	S P - 83、 S E - 1 を切る。
57	4	隅丸方	53	25	石 S P - 55、 S E - 1 を切る。
58	4	隅丸方	35×59	11	S P - 83に切られ、 S P - 86、 S E - 1 を切る。
59	4	楕円	41×45	11	S P - 54、 S E - 1 を切る。
60	4	楕円	47×50	19	S E - 1 を切る。
61	4	円	37×40	18	S P - 89に切られる。暗褐色砂混じり土
62	4	円	30×33	20	S P - 63を切る。
63	4	円	27×30	10	S P - 62に切られる。
64	4	円	17×20	17	S E - 3 を切る。
65	4	楕円	20×22	4	石 S P - 66、 S E - 3 を切る。
66	4	楕円	56×68	9	S P - 65に切られ、 S E - 3 を切る。
67	4	隅丸方	54	11	S P - 68に切ら、 S E - 3・4 を切る。
68	4	楕円	29×31	11	S P - 67・266、 S E - 4 を切る。
69	4	隅丸方	38	8	瓦器皿、柱根 S P - 220・221、 S E - 4 を切る。
70	4	楕円?	22×30	16	S E - 4 を切る。
71	4	隅丸方	28×40	18	S P - 263、 S E - 3・4 を切る。
72	5	円	15×20	18	
73	5	円	25×32	30	
74	5	円	35	5	暗褐色砂混じり土
75	5	円	25	17	
76	5	円	20×30	20	S P - 77に切られる。
77	5	円	25	26	S P - 76を切る。
78	5	円	25	20	
79	5	円	25×28	20	
80	5	円	25×27	22	S E - 1 を切る。
81	5	円	24	20	S E - 1 を切る。
82	5	円	44	37	S P - 83、 S E - 1 を切る。
83	5	隅丸方	75	24	石 S P - 56・82に切られ、 S P - 58、 S E - 1 を切る。褐色砂混じり土

番号	地区	平面形	規模	深さ	備考
84	5	隅丸方	32×45	29	S E - 1 を切る。暗褐色砂混じり土
85	5	円	25	21	
86	5	楕円	37×55	11	S P - 77 に切られ、S E - 1 を切る。
87	4	隅丸方	57×70	5	
88	4	楕円	25×30	4	S E - 3 を切る。
89	4	円	24	34	S P - 61 を切る。
90	-	-	- × -	-	欠番
91	-	-	- × -	-	欠番
92	-	-	- × -	-	欠番
93	-	-	- × -	-	欠番
94	4	円	34	15	S P - 95、S E - 3 を切る。
95	4	楕円	45×55	14	S P - 94 に切られ、S E - 3 を切る。
96	5	円	31	18	
97	5	円	20	19	S E - 2 を切る。
98	5	楕円	15×20	16	
99	5	円	19	21	
100	5	円	25×28	21	柱根
101	5	円	20×25	14	S P - 102 に切られる。
102	5	円	24	17	S P - 101 を切る。
103	5	円	28	21	
104	5	円	18	22	
105	5	円	20	14	
106	5	円	28×31	22	
107	5	楕円	35×45	8	S P - 108 に切られる。
108	5	円	22	13	S P - 107 を切る。
109	5	円	31×35	10	石
110	4	円	20	11	
111	4	円	19	15	S P - 112 を切る。
112	4	隅丸方	42×59	4	S P - 111 に切られる。
113	4	隅丸方	50×55	17	石、S P - 170 に切られ、S P - 187 を切る。暗褐色砂混じり土
114	2	円	21	30	S E - 2 を切る。
115	2	円	15×18	17	S E - 2 を切る。
116	2	円	27×32	19	柱根
117	2	円	23	17	S P - 118 を切る。
118	2	円	17×20	15	S P - 117 に切られる。
119	5	円	19	14	
120	5	楕円	18×25	17	
121	2	円	21	19	
122	2	円	27×30	22	S P - 123 に切られる。
123	5	楕円	35×36	13	S P - 122 を切る。
124	5	円	29	19	
125	2	隅丸方	37×40	19	
126	2	円	31	15	
127	2	隅丸方	35×50	14	
128	1	円	40	23	
129	1	円	36	30	S P - 235、S E - 3 を切る。
130	4	円?	28×35	11	S P - 131、S E - 3 を切る。
131	4	隅丸方	35×47	11	瓦器碗、S P - 130 に切られ、S E - 3 を切る。
132	1	隅丸方	40×50	18	S P - 133 を切る。
133	1	円?	27×75	4	
134	2	円	25	17	石鍋

番号	地区	平面形	規模	深さ	備考
135	2	円	22×25	17	
136	2	円	40	17	S P -138 を切る。
137	2	円	20×23	10	S P -138 を切る。
138	2	楕円	52×78	8	S P -136 + 137 に切られる。
139	1	楕円	52×60	22	S E - 3 を切る。
140	1	隅丸方	60×65	5	埋納ピット、土師器皿11点出土 S P -201 を切る。
141	-	-	-×-	-	欠番
142	2	円	15×17	18	S E - 2 を切る。
143	2	円	30	36	S P -144 を切る。
144	2	円	30	15	S P -143 に切られる。
145	2	円	28×32	8	
146	2	楕円	30×35	19	
147	2	円	29	25	S P -148 を切る。
148	2	円	24	26	S P -147 に切られる。
149	2	円	26×30	17	
150	2	円	23×27	14	
151	2	円	26×31	27	
152	2	円	22	21	
153	2	隅丸方	53×60	12	
154	2	隅丸方	60×70	29	擾乱に切られる。
155	2	隅丸方	55×70	32	S P -195 を切る。
156	1	隅丸方	49×56	23	暗灰黄色砂混じり土
157	1	隅丸方	50	36	S P -158 に切られ、S P -201 を切る。S B - 5
158	1	隅丸方	55×70	31	S P -157 + 159 を切る。
159	1	隅丸方	50×55	38	S P -158 に切られる。灰オリーブ色砂混じり土
160	1	隅丸方	40×50	26	S B - 5
161	1	円?	20×35	4	
162	1	隅丸方	53×70	11	
163	1	隅丸方	50	10	S P -164 を切る。S B - 4
164	1	隅丸方	33×50	85	S P -163 に切られる。
165	1	隅丸方	55×60	13	S D - 4 を切る。
166	1	隅丸方	57×68	14	
167	1	隅丸方	53×60	15	S P -204 を切る。暗灰黄色砂混じり土
168	1	隅丸方	50×75	14	S B - 4
169	1	隅丸方	45×53	4	にぶい黄褐色砂混じり土
170	4	円	14	7	S P -113 + 180 を切る。
171	4	隅丸方	55	13	石、暗褐色砂混じり土
172	1	楕円	54×57	13	S P -173 を切る。灰黄褐色砂混じり土
173	1	隅丸方	53×60	14	鉄製品 S P -174 に切られる。にぶい黄褐色砂混じり土
174	5	隅丸方	52	3	暗褐色砂混じり土
175	1	円?	11×20	4	擾乱に切られる。
176	1	隅丸方	20×50	4	擾乱に切られる。S D - 4 を切る。
177	5	円	30	27	S P -86、S E - 1 を切る。
178	5	円	19	5	S D - 3 を切る。
179	5	隅丸方	38×60	34	S P -18 に切られ、S D - 3 を切る。
180	4	楕円	35×40	19	土師器皿 S P -29 に切られ、S D - 3 を切る。
181	4	円	40×55	15	S P -182 に切られ、S E - 3 を切る。
182	4	楕円	55×68	15	瓦器皿、石 S P -181 + 184、S E - 3 を切る。
183	4	円	10×13	5	S E - 3 を切る。
184	4	隅丸方	30×70	5	S P -182 に切られ、S E - 3 を切る。
185	4	楕円	24×29	13	S E - 3 を切る。

番号	地区	平面形	規模	深さ	備考
186	4	円	19	23	瓦器碗 S P - 40 、 S E - 4 を切る。
187	4	円?	10×25	4	石 S P - 113 • 170 に切られる。暗褐色砂混じり土
188	4	椭円	34×45	13	土器皿、白磁碗 S P - 189 、 S E - 3 を切る。
189	4	円	27×34	5	土器皿 S P - 188 に切られ、 S E - 3 を切る。
190	4	円	22	16	S E - 3 を切る。
191	4	円	23	17	S E - 4 を切る。
192	5	円	19	18	S D - 3 を切る。
193	5	円?	20×30	15	
194	-	-	-×-	-	欠番
195	2	隅丸方	53×87	19	S P - 155 に切られる。
196	1	円?	57×90	20	石鍋
197	1	円	55×60	13	S P - 251 、 S D - 4 を切る。
198	1	椭円	55×63	11	
199	1	椭円	40×45	16	S P - 200 を切る。
200	1	隅丸方	50×53	17	S P - 199 に切られる。
201	1	不定	60×60	9	S P - 140 • 157 に切られる。
202	1	椭円	44×50	15	S B - 4
203	1	円	18	12	
204	1	椭円	50×50	18	S P - 167 • 205 に切られる。
205	1	隅丸方	55	14	S P - 204 を切る。 S B - 5
206	-	-	-×-	-	欠番
207	2	椭円	35×40	15	S E - 2 を切る。
208	2	円	35	19	S E - 2 を切る。
209	5	隅丸方	37×60	18	S E - 2 を切る。
210	-	-	-×-	-	欠番
211	-	-	-×-	-	欠番
212	4	椭円	28×35	16	S P - 26 に切られ、 S D - 3 を切る。
213	-	-	-×-	-	欠番
214	4	椭円	27×34	17	
215	4	椭円?	17×30	19	S D - 3 を切る。
216	5	長円	17×23	20	S E - 1 を切る。
217	5	椭円	33×35	35	獸骨 S P - 81 に切られ、 S E - 1 を切る。
218	5	椭円	30×40	38	S E - 1 を切る。
219	-	-	-×-	-	欠番
220	4	円	42×49	38	S P - 267 に切られ、 S E - 4 を切る。
221	4	隅丸方	29	16	鉄滓? S P - 265 に切られ、 S P - 266 、 S E - 4 を切る。
222	-	-	-×-	-	欠番
223	4	椭円	21×25	16	
224	4	円	26	14	S P - 261 、 S E - 3 を切る。
225	4	隅丸方	37×41	8	
226	-	-	-×-	-	欠番
227	4	円	22×25	15	S E - 3 を切る。
228	4	隅丸方	35×50	17	S P - 229 • 230 に切られ、 S E - 3 を切る。
229	4	隅丸方	34	7	S P - 230 に切られ、 S P - 228 、 S E - 3 を切る。
230	4	椭円	35×42	11	S P - 228 • 229 、 S E - 3 を切る。
231	4	椭円	28×45	15	S E - 3 を切る。
232	4	円	15	12	S E - 3 を切る。
233	4	隅丸方	16	12	
234	4	円?	20×25	18	S P - 235 に切られ、 S E - 3 を切る。
235	4	椭円	32×40	19	石 S P - 129 に切られ、 S P - 234 、 S E - 3 を切る。
236	1	円	31	36	S P - 237 を切る。

番号	地区	平面形	規模	深さ	備考
237	1	円?	25×38	30	S P - 236 に切られる。
238	1	円	19×22	9	
239	4	円	23	22	
240	4	円	23	17	S P - 241 に切られる。
241	4	椭円	20×25	17	S P - 240 を切る。
242	4	円	20	13	
243	4	椭円	20×23	19	
244	4	椭円	15×21	10	
245	-	- × -	-	-	欠番
246	1	椭円	20×30	14	
247	1	椭円	14×17	34	
248	2	椭円	22×25	34	青磁
249	1	椭円	25×28	16	石 S P - 250 を切る。
250	1	椭円?	15×20	12	S P - 249 に切られる。
251	1	円	23	5	S P - 197 に切られる。
252	1	椭円	22×26	15	
253	1	椭円	28×35	19	
254	1	椭円	30×35	22	柱根 S P - 255 を切る。
255	1	円?	18×30	21	S P - 254 に切られる。
256	1	円	45	16	S D - 4 を切る。
257	1	椭円	25×35	7	S D - 4 を切る。
258	1	椭円	31×39	11	S D - 4 を切る。
259	1	椭円	23×31	15	S D - 4 を切る。
260	4	不定	14×15	26	
261	4	円?	10×15	9	S P - 224 に切られ、S P - 261 、S E - 3 を切る。
262	4	椭円	19×27	3	石、S P - 261 + 263 に切られ、S E - 3 を切る。
263	4	長円	25×34	13	S P - 71 に切られ、S P - 262 、S E - 3 を切る。
264	-	- × -	-	-	欠番
265	-	- × -	-	-	欠番
266	4	椭円?	14×50	16	S P - 221 に切られ、S E - 4 を切る。
267	4	不定	46×50	25	S P - 41 + 220 に切られ、S E - 4 を切る。
268	4	椭円	45×54	44	
269	-	- × -	-	-	欠番
270	4	椭円	45×52	25	S E - 4 を切る。
271	-	- × -	-	-	欠番
272	4	円?	11×31	19	土師器皿、鉄製品 S P - 38 に切られ、S P - 273 、S E - 4 を切る。
273	4	隅丸方	34×49	24	土師器皿、瓦器輪、石鏡 S P - 38 + 273 に切られ、S P - 274 、S E - 4 を切る
274	4	隅丸方	60×64	9	S P - 37 + 273 に切られ、S E - 4 を切る。
275	-	- × -	-	-	欠番
276	4	隅丸方	30×33	12	石 S E - 4 、S D - 3 を切る。
277	-	- × -	-	-	欠番
278	-	- × -	-	-	欠番
279	-	- × -	-	-	欠番
280	3	円	36	31	S B - 3
281	3	円	26	31	S B - 3
282	3	長円	23×26	35	S B - 3
283	3	隅丸方	45×49	5	
284	3	隅丸方	46	5	
285	3	隅丸方	48×53	5	
286	3	隅丸方	41×45	4	
287	3	隅丸方	55	5	

番号	地区	平面形	規模	深さ	備考
288	3	円	37	5	
289	3	隅丸方	57	5	S B - 1
290	3	隅丸方	50	20	柱根
291	3	円	24	7	
292	3	楕円?	43×55	16	S P - 293 に切られる。
293	3	円	30×33	13	S P - 292 を切る。
294	3	円	36	25	上師器皿 S E - 2 を切る。
295	3	隅丸方	39×48	14	S P - 296 に切られ、S E - 2 を切る。
296	3	円	23	15	S P - 295 S E - 2 を切る。
297	3	隅丸方	40×43	18	S E - 2 を切る。
298	3	隅丸方	36×40	25	白磁碗 S E - 2 を切る。
299	3	隅丸方	52×65	5	
300	3	円	20×25	13	S P - 301 に切られ、S P - 355 を切る。
301	3	円	24	12	土師器皿 S P - 300 を切る。
302	3	楕円	25×29	6	須恵器蓋底部
303	3	隅丸方	55	8	
304	3	隅丸方	55	4	S B - 1
305	3	隅丸方	47	6	
306	3	楕円	35×39		
307	6	円	40	15	
308	6	楕円	20×25	29	
309	6	楕円	29×39	17	
310	3	楕円	27×37	10	S B - 2
311	6	円	22	11	
312	6	円	35	11	
313	6	楕円	24×28	26	S B - 3
314	6	隅丸方	49×66	9	S B - 1
315	6	円	25	21	
316	6	円	35	17	S P - 317 を切る。
317	6	円?	30×33	19	S P - 316 に切られる。
318	6	円	18	19	
319	6	円	16	17	瓦器椀
320	6	円	23×27	11	S B - 3
321	6	円	20×23	22	S B - 2 S E - 2 を切る。
322	6	円	24	14	S E - 2 を切る。
323	6	円	45×48	10	
324	6	円	20×23	15	S E - 2 を切る。
325	6	円	36	11	
326	6	円	29	25	
327	6	楕円	20×25	20	
328	6	楕円	15×17	14	
329	6	円	24	13	S P - 330 を切る。S B - 2
330	6	楕円	10×15	8	S P - 329 に切られる。
331	6	円	25	11	
332	6	楕円	52×60	7	S P - 334 に切られる。S A - 1
333	6	円	19	14	
334	6	円	34	6	S P - 332 を切る。
335	6	円	35	9	S B - 2
336	6	楕円	28×30	17	
337	6	円	30	16	
338	6	円	25	13	S P - 339 を切る。

番号	地区	平面形	規模	深さ	備考
339	6	隅丸方	45×62	13	S P - 338 に切られる。
340	6	円	34	22	S P - 341 を切る。S B - 2
341	6	円?	37×45	17	S P - 340 • 342 に切られる。
342	6	円	31	18	S P - 341 を切る。
343	6	円	32	21	
344	6	椭円	45×55	25	S P - 246 を切る。
345	6	円	25	27	
346	6	円?	25×40	26	S P - 244 に切られる。
347	6	円	26×29	8	
348	6	円	29	23	S B - 2
349	6	円	34×37	15	S P - 250 を切る。
350	6	円	19×24	15	S P - 249 に切られる。
351	6	円?	22×39	16	
352	6	隅丸方	49×59	7	S B - 1
353	6	椭円	43×44	8	
354	6	円	23		S B - 3
355	3	円	20×23		S P - 300 に切られる。
356	3	円	16×20		
357	3	円	50×53		
358	3	円	43		
359	3	円	23		
360	3	円	34		
361	3	椭円	30×35		
362	3	円	29		

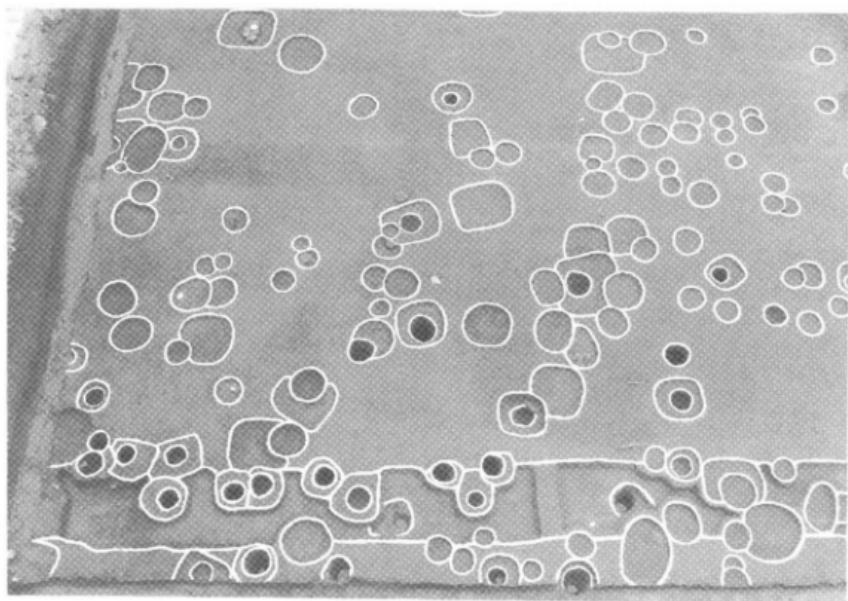
報告書抄録

ふりがな	きたしんまちいせきはっくつちょうさほうこくしょ						
書名	北新町遺跡発掘調査報告書						
副書名	店舗付共同住宅建設に伴う						
卷次							
シリーズ名	大東市埋蔵文化財調査報告						
シリーズ番	第12集						
編集者名	黒田 淳						
編集機関	大東市教育委員会大東市立歴史民俗資料館						
所在地	574 大阪府大東市新町13番30号 ☎0720-73-3521						
発行年月日	1997年(平成9年)10月31日						

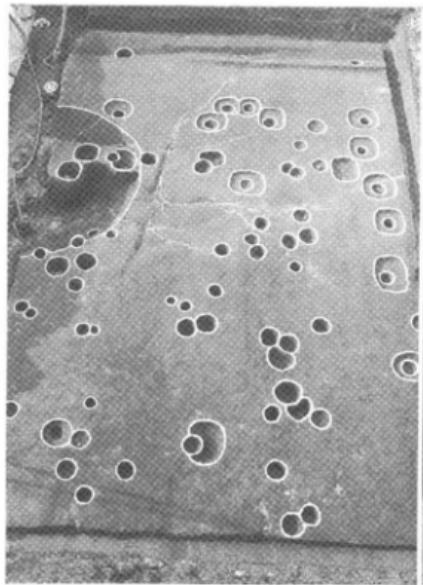
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
	大阪府 大東市 中楠の里 町386-1		27218	45	34 度 43 分 33 秒	135 度 38 分 22 秒	1989年 5月27日 1989年 7月27日	268m ²	店舗付共 同住宅建 設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
北新町遺跡	集落跡	弥生時代			弥生土器、石包丁			
		古墳時代	水田跡、土坑		須恵器、土師器			
		平安時代 末～鎌倉時代(中世)	井戸、溝、柱穴群、建物跡、棚跡		瓦器、土師器、輸入陶磁器		居館跡の一部?	
		近世	溝		陶磁器類(染付)		田畠に伴う水路	

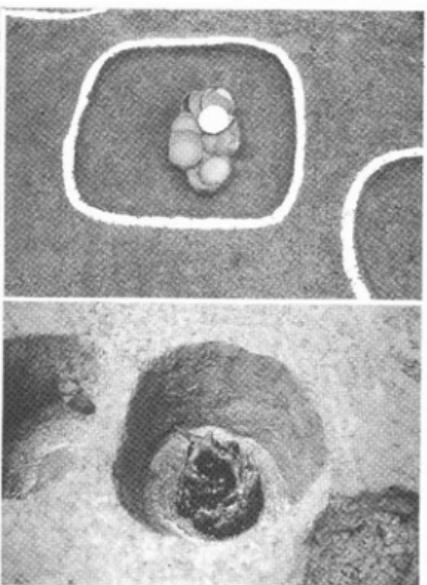
図 版



1・2・4・5区 全景

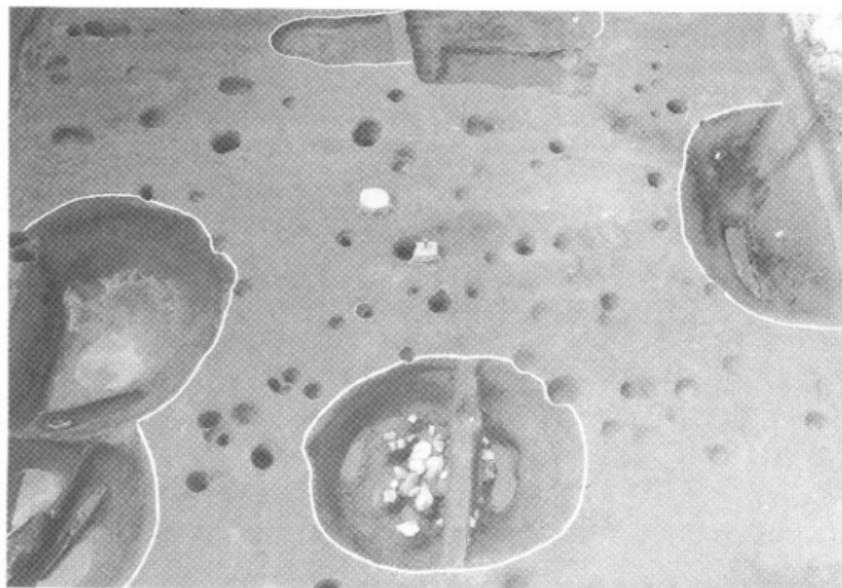


3・6区 全景



(上) SP-140
(下) SP-254

図版2
第2遺構面



4・5区全景

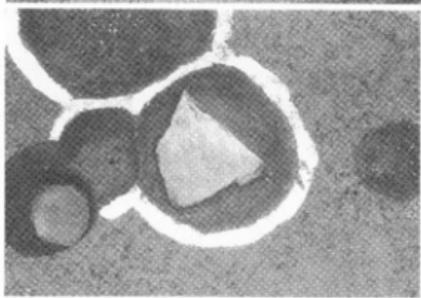
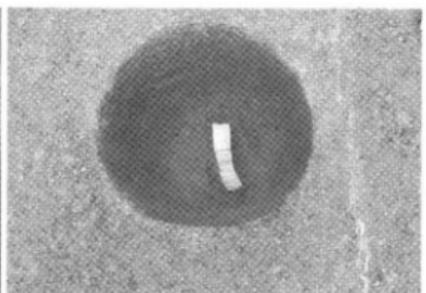


SE-4 遺物出土状況

図版 3
第2 遺構面



SB-4+5



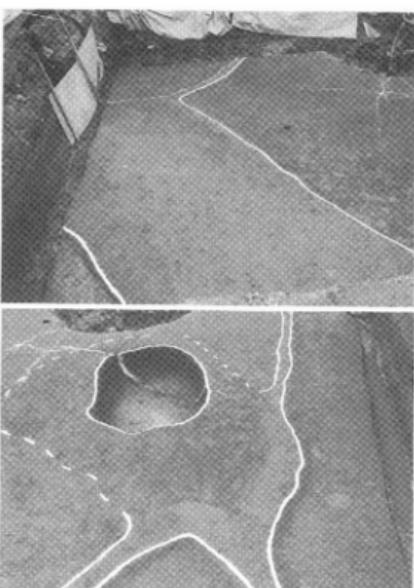
(上) SP-196
(下) SP-212



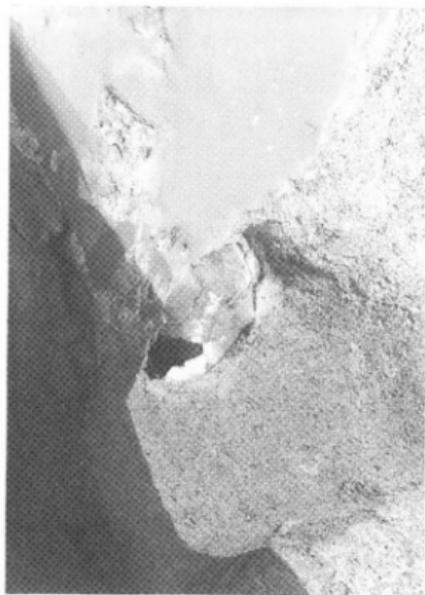
(上) SP-55
(下) SE-1



3-6区 畦畔



(上) 畦畔-4
(下) 畦畔とSK-1



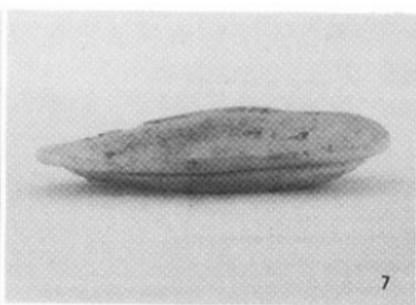
弥生土器出土状況



石包丁



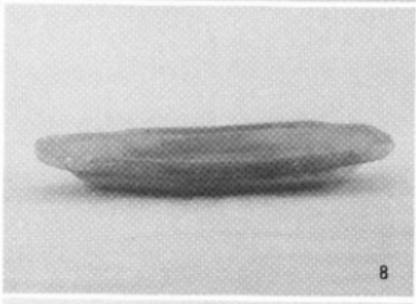
1



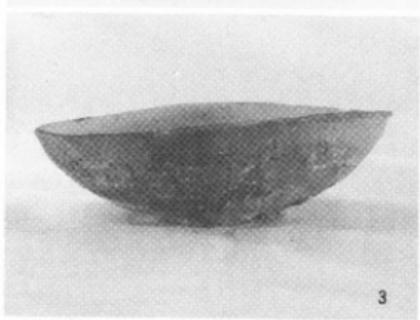
7



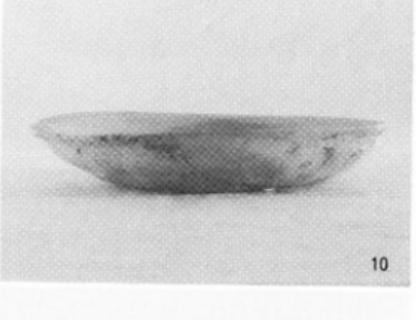
2



8



3



10



4



11



12



14



16



96



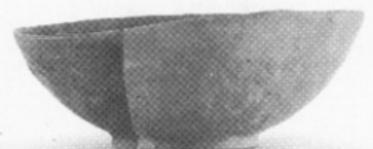
22



23



24



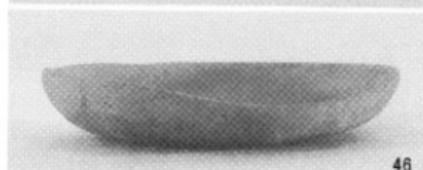
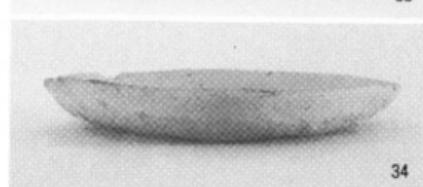
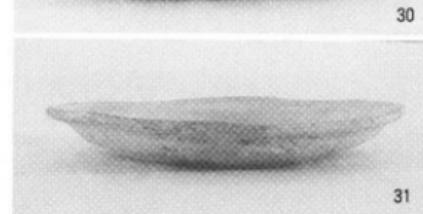
17

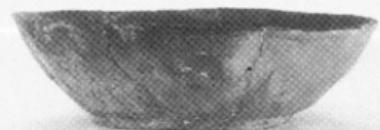


25



26

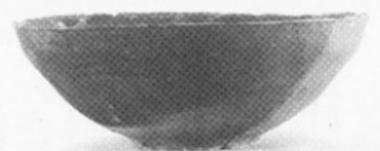




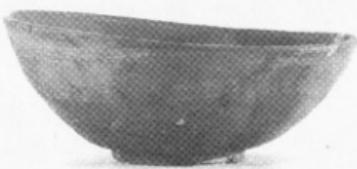
49



51



57



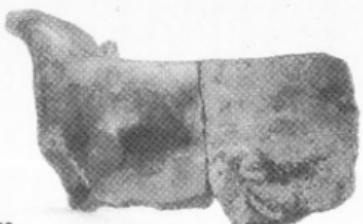
58



50



48



48

